



苗から林、林から森へ。森林成長記

— 金谷山さくら千本の会 — (上越市) 会長 相澤紀

# 「四季を彩る金谷山の 里山づくり」を目指して



金谷山さくら千本の会  
活動地全景



第2回  
植樹祭の様子  
(平成15年)



before

◀ その後の成長はP10へ

## 活動の始まり

昭和35年3月大きな夢を背負って高田高校の校門をあとにした青年たちは、夫々が色んな人生行路を歩み、平成14年還暦を迎えました。皆は仕事も卒業し、時間的にも余裕が出来ることから何か故郷に小さな恩返しをしようと、高校時代にスキー授業の舞台であった、日本スキー発祥の地「金谷山」に桜を植え、育て「平成の花咲か爺さん」を目指そうではないかとの意見がまとまり、早速行動を起こし会員を募ったところ県内外の同級生がその家族を伴って164名の参加となりました。

## 金谷山の活動地

活動地は金谷山公園内のスキーゲレンデに挟まれた3haの里山林で、

## 昭和40年頃まで

家庭の燃料源として利用されていましたが、その後の石油時代を迎えると利用は途絶えてしまいました。人との係わりを無くした里山林は放置状態となり、雑木が過密で人を寄せ付けず、子供たちの栗拾いの声が聴けなくなり、加えて老齡過熟となった里山林は、松くい虫やカシノナガキクイムシのダメージも受け荒れた状態になっていました。里山林は人との係わりの中で健全に維持されてきたもので、人と森の係わりを取り戻すことが里山の再生につながることを確信し、上越市、地権者のご理解を得て活動を始めました。

## これまでの活動

今年で22年目を迎えた活動は、平成14年秋、10本の桜を植えることか



第10回  
植樹祭の様子



ら始まりました。翌年からは、雪のない4月から11月の第二日曜日を定例活動日と定め活動を継続しています。活動を始めた頃は藪状態の里山林で、桜を植え、憩いの広場や遊歩道を造り、水辺や湿地の整備を進めるために、雑木を伐採することは慣れない大仕事でしたが、「口を出さずに汗を出す」をモットーに毎年、秋の桜植樹祭を目指して励んできました。汗して伐採した雑木は丸太ベンチとして憩いの広場を利用し、ナメコの原木として味わいを楽しみました。近年の活動は植樹した桜の草刈りや施肥、枯れた桜の補植などの育樹活動と周辺整備を主体に継続しています。

桜の植樹…日本の桜は野生種（山桜）が10種、栽培種（里桜）が300種以上と言われています。この中から金谷山に植える桜は、高田城址公園の染井吉野ではなく野生種の中からヤマザクラ、オオヤマザクラ、エドヒガン、カスミザクラを植えることにしました。これらは実生で作られていることから花付きが遅く、花付きの早い接ぎ木の栽培種18種を見本的に植え込みました。これまでに557本を植樹し、今は多くの花を咲かせ楽しませています。

子供たちとの共同作業…私たちの活動と共に地元の高田西小学校3年生の児童たちが総合学習で桜庭を訪れていました。平成26年からの3年間は秋に桜の植樹を行い、植樹後はお互いに歌の交換など楽しい時間を過ごしました。今でも4月になるとお花見を兼ねて桜庭を訪れ桜の勉強をしています。平成27年からは上越緑の少年団と桜の草刈りや施肥の育樹作業や雪割草、ヤマユリの植え付けを一緒に行い、桜庭を一巡りして桜や森のことを観察し、金谷山のことを学んでいます。会員の皆は、この活動を通して子供たちから大きな元気をもらっています。

高田西小学校  
児童との植樹



豪雪被害を受けた  
桜の復旧

活動における試練

豪雪被害…活動を始め5年目の平成18年は20年振りの豪雪に見舞われ、植樹した桜は倒伏などの大きな被害を受けました。その後も毎年雪による被害を受け、春は倒木起こしの作業が仕事始めとなりました。植樹地はスキージャンプ台のランディングバーンなど傾斜地が多く、雪対策では2.5mの苗木を支えるため

一本支柱を設置し、豪雪時には雪の斜面移動を抑えるため桜の上方に丸太のグライド防止工の設置もしました。平成3年も9年振りの豪雪で、成長した桜の高さ3m以上の太い枝が雪を抱えて折損する大きな被害を受けてしまいました。

雪害対策の  
グライド防止工  
設置



雪害復旧作業の  
台間







遊歩道の整備

**桜の枯損**：雪に耐えて大きく育ち、花を沢山付けるようになった桜が初夏に突然、全葉を赤くして枯れてしまふナラタケモドキ病が発生しました。キノコの菌糸束が地際部や根部の表皮下を覆い水分を遮断して枯れる厄介な樹病で、毎年数本の桜が被害にあっています。

**イノシシ被害**など…初めの頃は兎の被害が見られましたが、平成29年には突然イノシシが現れ、植え付けて毎春楽しんでいた水芭蕉が食いちぎられる被害で全滅してしまいました。加えてヤマユリは、自生していたものから種を取り、4年かけ育て桜庭に植え、花を期待していました

還暦で始めた活動は、にいがた緑の百年物語緑化推進委員会と共に歩み、これまで4,000人近い会員の参加に支えられてきました。近年は参加者も少なくなり、会員の殆どが80歳を超え体力、気力に衰えを感じ

**これからの思い**

が、すべてが食害されてしまいました。このほかにも心が痛むことがあります。毎年、雪割草の育種家から多くを頂き桜庭に植え、春の景色を楽しんでいた雪割草が盗掘されてしまったことです。残念でなりません。今もめげずに植え続けています。

高田西小学校  
3年生の  
総合学習



上越緑の少年団  
との共同作業



じながらも、金谷山への強い思いと互いの絆が今もって活動の推進力になっっています。雪が消えるとカタクリが一面に咲き、雪割草も色を添え、雪に耐えた桜たちが沢山の花を咲かせ、年々美しい桜庭に変身しています。その桜庭に多くの市民や子供たちが訪れることは大きな励みで、雪などの自然の猛威にはかきません。これからも仲間たちの強い思いで、金谷山と対話しながら「四季を



満開の  
桜庭

after

植樹の結果、第二回植樹祭開催地(P8)の場所にこんなに桜が咲きました！

春の金谷山桜庭を  
薄紫に彩る  
カタクリ



彩る金谷山の里山づくり」の実現を目指し活動を継続してきます。